

第1章 四万十の地名を歩く

1、はじめに

現代の私たちが土地の呼び名「地名」を使う場面に住所表記がある。住所は都道府県名から始まり、市郡名、町村名、大字、番地、建物名称と続いて表記する。大字は町部では「～町～丁目」の形で呼ばれ、今も広く使われているが、大字より小さい小字を住所表記で使う地域は全国的に少ない。現代の地名を、地名が指す土地の範囲で階層的に分類すると図1のようになる¹⁾。

一方、昭和以前の時代には大字よりも細かい小字や、文字として地図や行政の図面に記載されない通称地名が使われていた。また、江戸時代以来の「郷」や「小村」を指す大字、小村の中の小集落を指す「組」の意識も根強く残っていた。文書や地図に記載されることの多い「大きな地名」に対し、記載されにくく口頭で伝承されてきた細かな「小さな地名」も言葉（語彙）として日常生活の中で使われていた時代である。山海川の土地を積極利用していた時代には、地名は生活に欠かせないものだったのである。この住民しか知らない小さな地名が、現代では小字の不使用や集落の高齢化・限界集落化で、伝承・記録されることなく、忘れ去られ、消失してしまっている²⁾。1960年代のエネルギー革命に伴う生業の変化によって、土地利用が後退し、さまざまな土地を地名で呼ぶことが少なくなったことが要因だと考えられる。地名ばかりでなく集落や土地の伝承、生活の記憶も、長年語り継いできた古老がいなくなることで亡失、消失している³⁾。

このことに危機感を持った研究者たちが、全国各地で地名や民俗の記録を続けているが、個々の研究者ができることには限界がある。また、調査や記録をまとめた研究論文や学術報告書に一般の住民が触れる機会は少なく、その成果を地域に還元し、伝承や活用へつなげる取り組みはほとんど行われていない。高知県四万十町の住民団体「奥四万十山の暮らし調査団」は、こうした記録を地名や民俗の伝承者である住民自身が行い、地域で共有化していく取り組みを進めるため、2016年1月に地域の地名や歴史民俗に関心を持つ住民有志で結成された。調査団は、地名を歴史資料として再評価し、全国の集落で古老に聞き取り調査を行

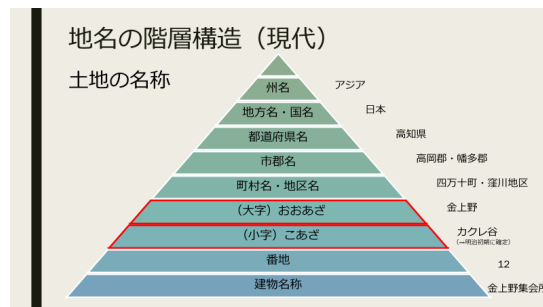


図1 地名の階層構造（現代）

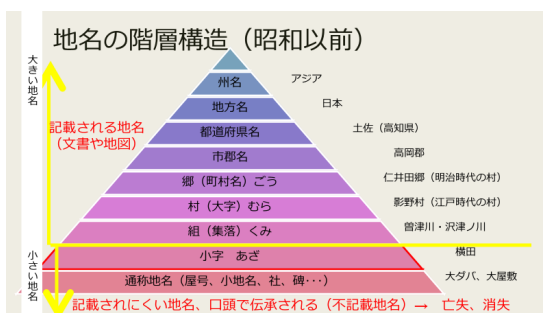


図2 地名の階層構造（昭和以前）

¹⁾ 上野智子 2008『小さな地名の調べかた』（和泉書院）の整理を参考にした。

²⁾ 楠瀬慶太 2013「高知県旧物部村の地名に見る山の民俗誌」『四国中世史研究』12号、楠瀬慶太 2013「地域再生の歴史学」『地方史活動の再構築』雄山閣。

³⁾ 楠瀬慶太 2009「限界集落化の歴史的プロセスに見る山村の未来」『政策経営研究』2009. vol11。

って不記載地名や民俗誌の収集・記録に努めてきた九州大学服部英雄研究室⁴⁾の調査手法を参考に、高知県西部の四万十地域を中心に集落での地名民俗調査を続けている(写真1)。

調査成果を記録として残していくためには、活字の報告書発刊が重要である。調査団では、九州大学地域資料情報講座が発刊してきたシリーズ「地域資料叢書」として調査報告書を2018年から刊行している。調査団としての第1冊は『土佐の地名を歩く』(地域資料叢書17)で、高知県の地名に関する文献や調査・分析方法を紹介し、四万十市(半家)^{はげ}・四万十町(江師、大正中津川、宮内)^{なかつがわ みやうち}の4集落での調査成果などを報告した。第2冊『続土佐の地名を歩く』(地域資料叢書18)は、研究論集の形を取り、古地図や地名を使った住民による調査成果を掲載した。この中では、山間部の四万十町打井川地区と海岸部の黒潮町佐賀地区との峠を介した交通・流通の民俗誌についての調査成果も報告している。また、報告書は調査団のホームページ「四万十町地名辞典」で全文をPDF公開している。

本書『四万十の地名を歩く』(地域資料叢書19)は調査団の調査報告書第3冊である。今回は、高知県西部・四万十川流域の梶原町、四万十町、四万十市をフィールドに調査団のメンバーが行った調査の成果をまとめた。第1章「四万十の地名を歩く」では、まず調査地域の位置と環境を確認する。そして、四万十町で使われている約6千の地名を語彙として分析し、どのような語彙がよく使われているか、地名の分布から集落の生業を読み解く。第2章「四万十の村々を歩く」では、2012～2019年に行った四万十市2集落(口鴨川・江川)、四万十町3集落(金上野、下津井、小野)、梶原町(町組)の地名民俗の聞き取り調査の成果を報告する。また、須崎市(大角豆尻)、四万十町(藤ノ川)の民俗例(祭礼)についても紹介する。第3章「地域資源地図で見る四万十」では、四万十川流域の地名や民俗の調査成果をまとめた5つの地域資源地図を紹介する。第4章「四万十の地名を考える」では、高知県の熊野神社、戦国期の上山郷(大正・十和地区)と海の領主の関わりに関する2論考と、佐賀越えと呼ばれる大正一佐賀をつなぐ古道の踏査成果、大正中津川の関札調査の2報告を掲載している。

本書の目的は、四万十川流域の住民の記憶に残る地名や伝承、生活の記憶などの「民衆知」を聞き取り、後世に残すことにある。また、地名にまつわるさまざまな伝承や生業の記憶を聞き取り、文字としての地名を「生きた地名」として記録し、地域資源として活用してもらう基礎的資料を提供することにある⁵⁾。本書の地図や調査記



写真1 調査団の聞き取り調査の様子

録は誰もが見て調べられるようにするため、それぞれデジタル地図化して、ホームページ「高知工科大学フィールドデータベース」で公開する予定である。

⁴⁾ 代表的な成果に、服部英雄 2001『二千人が七百の村で聞き取った二万の地名・しこ名』(花書院)、服部英雄 2000『地名の歴史学』角川叢書、服部英雄 2007『峠の歴史学』朝日選書などがある。

⁵⁾ 武内文治 2019「“四万十町地名辞典”への記録活動から」『地名と風土』13(日本地名研究所)、楠瀬慶太 2019「地域資源としての地名」『地名と風土』13(日本地名研究所)。

2、位置と環境

本書が調査対象としたのは四万十市（旧中村市、旧西土佐村）、四万十町（旧十和村、旧大正町、旧窪川町）、梶原町、須崎市である（図3）。旧中村市、旧西土佐村、旧十和村、旧窪川村は県西部の幡多郡、旧窪川町・旧梶原町は県中西部の高岡郡に属する。なお諸説あるが⁶⁾、中世には幡多郡と旧窪川町は一条氏の庄園「幡多庄」、須崎市・梶原町は京都下鴨神社の庄園「津野庄」の領域にあり、本書は幡多庄・津野庄の庄園故地調査報告書の性格も兼ねている。以下『日本歴史地名体系 高知県の地名』を参考にそれぞれの位置・環境を紹介する。

（1）四万十市中村地域

旧中村市の領域にあたる。県西南部の四万十川下流域にある。耕地は中筋川流域に東西に延びる中村平野と、四万十川と後川の河谷沿いの河岸段丘と氾濫原のわずかな平地に集中している。市の南東部、四万十川河口付近の一部を除き、幡多山地ともよばれる低い山地が取巻いている。市名は中世以来、幡多郡の政治・経済・文化の中心地であった「中村」により、土佐の小京都と呼ばれた。

幡多郡の地は鎌倉初期から九条家の庄園となり、幡多庄とよばれた。建長2年（1250）幡多庄は九条道家から実経（一条家の祖）に譲られ、以後一条家の庄園として発展するが、中村市は幡多庄のうち本荘（本郷）とよばれた。一条氏は鎌倉・室町時代を通じて、荘内に預所・沙汰人を置いて管理したが、応仁の乱前後から荘内は平穏でなくなり、周辺土豪の横領・侵略に苦しめられる。応仁2年（1468）一条教房は乱を避けて土佐に下向し、本郷の中村にその住いを定め、家領の回復に努めるとともに町づくりに努めた。戦国期には一条兼定が長宗我部氏に敗れ、中村はその支配下に入った。

近世には、土佐国主となった山内一豊の弟康豊が中村に入り、2万石を与えられた。中村山内家は一時断絶したが、のち土佐藩2代藩主忠義の次男忠直が3万石を給されて再

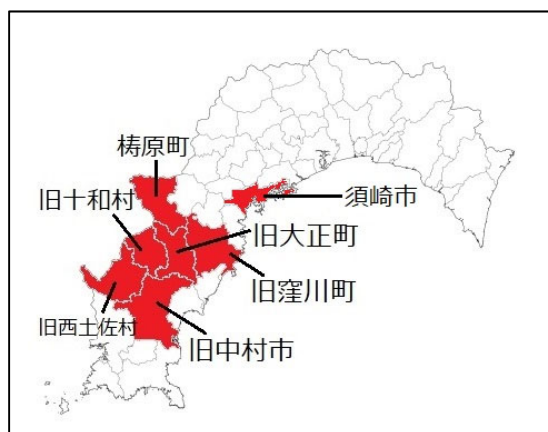


図3 本書が対象とした高知県内市町村



図4 本書が対象とした集落の位置

⁶⁾ 大川恵子 2019『摂関家領土佐国幡多荘再考』清文堂出版。

興、中村藩が成立。同藩は元禄2年（1689）直久のとき幕府の忌諱に触れて取潰しとなる。中村藩成立に伴って、中村は多数の武士が居住する場所となり、商人の出現もあって活況を呈し、市街地が拡大した。中村山内氏の支配は断続して約1世紀続いたが、この間野中兼山による四万十川流域の改修や後川分水の四ヶ村溝、岩田川から引いた野中溝などの灌漑工事、中筋川の改修が行われたほか、大坂・江戸との取引港であり、藩の貢物米の移出港でもあった下田湊の改修なども計画された。下田は幡多郡の物資の集散地である中村の外港として栄えた。

近代になると、明治22年（1889）の町村制施行により、旧中村市域には中村（→中村町）・東山村・下田村（→下田町）・八束村・東中筋村・中筋村・具同村・大川筋村・後川村・蔵岡村・山中村（→富山村）の11ヶ村が成立。昭和29年（1954）には2町9村が合併して中村市が発足し、幡多郡から分離した。2005年に旧西土佐村と合併して四万十市となっている。

（2）四万十市西土佐地域

旧西土佐村の領域にあたる。県西北部にあり、愛媛県に接する。四万十川中流に位置する山村で、東部には北からホケガ森（松平山、764メートル）・鷹の巣山（655メートル）・堂が森（857メートル）、西部には八面山（1166メートル）・大黒山（1106メートル）・ほけが森（752メートル）がそびえる。四万十川には広見川、目黒川、黒尊川などが流入するほか、小河川が山々の間から注いでいる。平地はこれらの河川の流域、ことに四万十川と目黒川流域に発達するが、林野率は約90%を占め、耕地率は約2%にすぎない。江戸時代には高岡郡窪川（旧窪川町）から四万十川の流れに沿って下り、下山村（現江川崎）から伊予の広見（愛媛県鬼北町）に出る街道（通称窪川・宇和島街道）が通じていた。また、南予から土佐への入口にあたり、経済・文化も宇和島圏内に入っていた。村々は江戸時代には下山郷とよばれ、明治22年（1889）の町村制実施によって江川村など6村が江川崎村、藤ノ川村など15村が津太村となり、昭和33年（1958）両村が合併して西土佐村となった。2005年に旧中村市と合併して四万十市となっている。

（3）四万十町窪川地域

旧窪川町の領域にあたる。高岡郡最南端に位置する。東南は海に面し、志和港から絶壁の海岸が興津崎まで続き、興津崎のある小半島の西は白砂青松の小室の浜。東・北・西の三方は山に囲まれ、中央部を南流する四万十川流域には平均標高200メートルの高南台地が開ける。

台地西北隅にそびえる鈴ヶ森（1054メートル）から東方の大小権現山（693メートル）を経て七子峠北方に至る山嶺は旧大野見村との境、七子峠から南の火打ヶ森（591メートル）を経て志和の北にある中岬に至る山地が中土佐町との境となっている。また鈴ヶ森から南に延びる山々で旧東津野村、梶原町、旧大正町に接する。南は五在所ノ峯（658メートル）を境に旧佐賀町。町域北部で松葉川とも称する四万十川は根々崎で仁井田川と合流し、蛇行しながら流域に河岸段丘を形成している。旧大正町で梶原川と合流するまでを仁井田川という場合もある。

明治22年（1889）の町村制施行により、窪川村（→窪川町）・松葉川村・仁井田村・東又村・与津村（→興津村）が成立。大正15年（1926）窪川村が町制を施行、昭和30年（1955）

1町4村が合併して新たに窪川町となった。高南台地は山地酪農や豚の飼育の盛んなところで、良質の仁井田米の産地として知られ、県下有数の穀倉地帯でもある。海岸部の志和・興津は沿岸漁業が盛ん。2006年に旧大正町、旧十和村と合併し、四万十町となる。

(4) 四万十町大正地域

旧大正町の領域にあたる。四万十川上流の山間部に位置する。四万十川には相去川^{あいざれ}、打井川^{うつい}、つづら川、梶原川が流れ込む。平地は主として四万十川沿いの河岸段丘上にあり、林野率は約90%で、耕地率は約1.6%。杉・檜・樺などの用材生産が主であるが椎茸の栽培も盛んで、ほかに栗・茶の生産の向上が図られており、鮎が名産。江戸時代、旧町域は上山郷^{かみやま}と呼ばれ、明治22年の町村制実施によって上山郷上分に属した18村と上山郷下分に属した4村が合併、東上山村となった。大正3年(1914)大正村と改称、昭和22年(1947)には町制を布き大正町となった。2006年に旧窪川町、旧十和村と合併し、四万十町となる。

(5) 四万十町十和地域

旧十和村の領域にあたる。四万十川中流域の愛媛県境の山村で、東から西へ四万十川が流れるが、蛇行が最も著しいところである。四万十川には津賀の川^{つが}・北ノ川^{ののがわ}・野々川^{ののがわ}・久保川^{ののがわ}・長沢川^{ながさわ}・井崎川^{いさき}・相後川^{あいご}がそれぞれ流入し、集落は四万十川の本支流の段丘などに散在する。林野率は約90%、耕地率は約2.6%で、林業や椎茸、茶栽培が盛ん。農産物は繭・茶・玉蜀黍など。江戸時代には上山郷下分に含まれ、明治22年町村制実施によって浦越村^{うらごし}など12村が西上山村、井崎村など7村が十川村となった。昭和3年(1928)西上山村を昭和村と改称、昭和32年(1957)に昭和・十川両村が合併して十和村となった。2006年に旧窪川町、旧大正町と合併し、四万十町となる。

(6) 梶原町

高岡郡の西北部、四万十川最上流部の支流・梶原川と四万川流域に位置する愛媛県境の山村。北部の県境の薮野山^{あぞの}(1403 ㍎)は東に延びて大野ヶ原となる。その東には旧東津野村(現津野町)の天狗高原に続く地芳台^{じよしだい}のカルスト台地が続く。梶原川は源を越知面に発して南下し、四万川、北川と合流し、旧大正町で四万十川に流れ込む。明治22年の町村制施行により、梶原村など6村が合併して西津野村と称したが、明治45年(1912)に梶原村と改称し、昭和41年(1966)に梶原町となる。中世には京都・下鴨神社の庄園「津野庄」の領域にあり、荘官の津野氏が支配した。町域は古く土佐紙の産地であったが現在は廃れてしまっている。津野山神楽や回り舞台など、山村の豊かな民俗が今に伝えられている。

3、四万十の地名語彙

(1) 地名語彙の研究史と方法

四万十町の地名語彙については、小字を対象に武内文治氏の詳細な分析がある。まず、四万十川の語源については戦国末期以降の歴史文献や地図に記載された川名を抽出し、語源や地域・時代による呼称の変遷などを先行研究とともに整理している⁷⁾。また、山の地名に

⁷⁾ 武内文治 2018「四万十川語源考」『土佐の地名を歩く』地域資料叢書 17。

については、「山」「森」「峯」の3つの語彙が使われ、集落などが共有で利用する入会林の語彙については「ナカマ系」(仲間など)、「モヤイ系」(催合)、「コミヤマ系」(古味など)、「村山系」(本村山など)、「タテノ系」(立野など)、「シバキ・シバノ系」(芝野など)、「ハルキ系」(ハルキ)、「ヤブ系」(ツヅラヤブなど)、「ノテ系」(ヨコノテ)、「カヤ系」(カヤカリなど)に分類して整理している⁸⁾。また、焼畑地名について「焼畑呼称型」(火・屋地名、輪作地名、循環地名、伐採形状地名)、「収穫表示地名」(多収量表示地名)、「出作り関係型」(小屋地名、収穫作業地名)、「人名型」、「作物型」に分類して整理している⁹⁾。

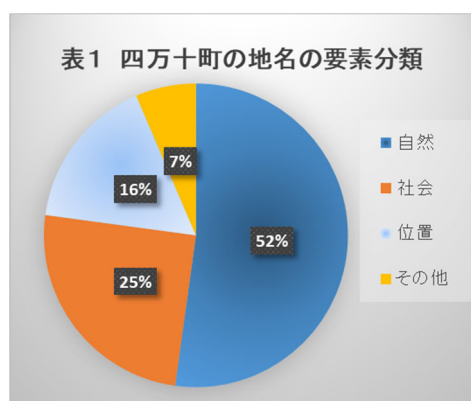
焼畑地名の整理は重要な分析だが、複数の意味を持つ地名の性格の解釈は非常に難しい。地名の性格を見る場合、地名が位置する土地の立地や環境を確認した上で、その意味を解釈するのが実証的かつ無難である。そこで、本稿では歴史地理学者の関戸明子氏らが用いている、大量かつ複雑な地名を語彙分類し、統計化・構造化することで地域の地名の特徴を客観的に明らかにする方法¹⁰⁾で、四万十町の小字を分析してみたい。

地名のほとんどは複数の語によって構成される複数語である。例えば、「大谷」という地名は、前部の「大」という土地の性質・状態を表す形容語と、後部の「谷」という地形名で構成されている。特に、語構成の最後部の接尾辞は複数の地名に共通してみられ、下位の地名のカテゴリーの基準として重要な機能を果たし、地名の持つ意味を強く規定している。接尾辞は、「ヤ」「ヤシキ」「タク」「ヂ」「ハタ」「タ」「バ」など人間によって人為的に作られた「社会的要素」を持つもの、「タニ」「サコ」などの地形を表す「自然的要素」を持つもの、「キタ」「ミナミ」などの方位、「シモ」「カミ」などの方向を表す「位置関係要素」を持つものの三つのカテゴリーに分類される。エクセルに地名と接尾辞を入力して項目ごとに数量を抽出する作業を繰り返すと地名のカテゴリー分類表ができる。これを町内の地域ごとに分けて分析し、他地域と比較することで、その地域でよく使われる傾向のある語彙やその地域の生業・地形に関連した語彙を相対的に明らかにする手法である。

(2) 四万十町の地名語彙のカテゴリー分類

今回分析対象としたのは、四万十町の小字 6594 語である¹¹⁾。これらの接尾辞のみを抽出して、「社会的要素」「自然的要素」「位置関係要素」「その他」に分け、接尾辞の語彙別に集成した。意味が複数あるなど要素の特定が難しいものは、「その他」として分類した。

四万十町の地名語彙をカテゴリー一別に見ると、



⁸⁾ 武内文治 2018「四万十山のアラカルト」『土佐の地名を歩く』地域資料叢書 17。

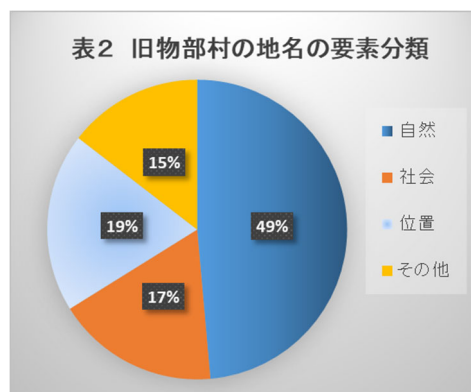
⁹⁾ 武内文治 2018「焼畑地名考」『土佐の地名を歩く』地域資料叢書 17。

¹⁰⁾ 関戸明子 1988「地名研究の視点とその系譜」『歴史地理学』140、関戸明子 1989「村落の空間構成と地名からみた土地分類」『人文地理』41-2。

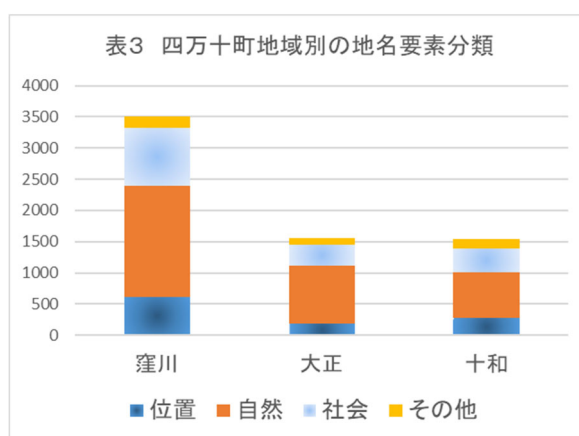
¹¹⁾ 武内文治氏が HP「四万十町地名辞典」で公開している集成データを利用した。小字の位置データおよび、今回の語彙分析で用いた地図は HP「高知工科大学フィールドデータベース」で公開している。

「自然」 3441 語・52%、「社会」 1646 語・25%、「位置」 1083 語・16%、「その他」 424 語・7%となる（表 1）。この地域の人々が自然を利用する中で、そこに多くの「自然」的要素の地名を付け、自然を開発してそこに「社会」的要素の地名を付けてきたことがうかがえる。

また、参考までに高知県中東部の山村・旧物部村（現香美市）の地名語彙分類¹²⁾（表 2）と比較すると、「自然」が地名の 50%前後を占める傾向は類似しているが、「位置」が「社会」に加えて多い傾向が四万十町とは異なる。急傾斜地に集落が展開する県中東部の山村では、集落が集村化する傾向があり、集落内での家屋の位置関係を示す「位置」関係要素の屋号が多い。一方、傾斜の少ない河岸段丘状に集落が展開する県西部の四万十川流域の山村では、散居的な集落が多く、「位置」関係要素の屋号が少なく、小字などの土地の地名を冠した屋号が多いことが確認されており、地形の違いが使う語彙の傾向に影響を及ぼしている可能性がある¹³⁾。



四万十町内の地域別に見てみると、窪川地域（「自然」 1776 語・50.7%、「社会」 931 語・26.6%、「位置」 620 語・17.7%、「その他」 175 語・5.0%）、大正地域（「自然」 935 語・60.2%、「社会」 332 語・21.4%、「位置」 185 語・11.9%、「その他」 102 語・6.5%）、十和地域（「自然」 730 語・47.5%、「社会」 383 語・24.9%、「位置」 278 語・18.1%、「その他」 147 語・9.5%）となっている（表 3）。大まかな傾向はほとんど変わらないが、大正地域で他の 2 地域よりも「位置」の割合が低く、「自然」の語彙が多く使われている傾向がある。



次に、四万十町で小字地名として多く使われている語彙を窪川、大正、十和地域ごとに数量を抽出して整理してみる（表 4）。さらに、地名の位置情報と組み合わせて、語彙の性格を追究してみたい。

【自然】

自然的要素では、「ヤマ」（886 語）「タニ」（757 語）が特に多く使われており、ほとんどが山林で四万十川に多くの小河川が流れ込む地形が地名語彙に反映されている。「ヤマ」「タ

¹²⁾ 物部の地名語彙データは、小字に加えて現地の古老への聞き取りで収集した小地名・屋号を加えた結果であるため、単純な比較は難しい。地名データは楠瀬慶太 2008『新葦生・槇山風土記』（花書院）の集成表を使用した。

¹³⁾ 楠瀬慶太 2018「土佐の山村屋号を記録する一語彙論から集落論へ」高知大学国語国文学会第 66 回研究会報告。

ニ」の土地利用が積極的だったことも、語彙が多い要因と考えられる。また、「コエ(コシ)」(95 語)が多い点も注目である。山谷が入り組んだ町域では、峠を越えて集落間を行き来する場合が多く、人々が「峠」に重要な意味を見いだしていたことがうかがえる。

次に「平地」を示す語彙を見てみよう。「クボ」(160 語)「ダバ」(153 語)「ノ」(90 語)「ウネ」(86 語)「ハラ」(59 語)「ナロ」(56 語)などの語彙が使い分けられている。地域別にみると、「クボ」「ノ」は窪川、「ダバ」「ウネ」は大正、「ハラ」は十和でよく使われる傾向があり、各地域の地形や景観の違いを反映した結果かもしれない。「川・谷」では、水量や谷の形状から「カワ」「タニ」「サコ」の呼びかけがあったことがうかがえる。「セ」(69

表4 四万十町の地名語彙のカテゴリー分類表(※主要なもの)

						接尾辞						窪川						大正						十和						合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
						建物						仏						神						土地						交通						水路						塚						人名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
						ヤシキ						ヤ						ドイ						ドウ						テラ						アン						ボウ						カミ						ミヤ						オウ						ジ(チ)						キレ(キリ)						バ						カイ						ダン						ブン						タ						デン						シロ						メン						ハタ(ケ)						ツクリ						マキ						ミチ						ト						ツ						ハン						イ						ホリ						イデ						セキ						タチメ						サカイ						人名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
						217						17						0						3						1						7						5						9						1						5						4						5						23						7						4						1						16						11						1						5						12						1						0						2						5						0						5						0						1						7						10						17						7						10						34																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
						66						11						3						1						1						1						9						3						13						3						0						3						1						16						96						8						14						5						1						26						4						4						16						6						6						11						4						0						0						0						2						0						1						2						0						0						1						1						2						1						7						10						43						17						10						38						66						14						4						59						16						133						100						24						12						24						17						18						7						12						5						18						12						5						7						6						3						1						4						0						6						3						1						4						0						0						2						4						0						1						4						0						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4						0						4					

語) は川の浅瀬を指す語彙で数が多いが、その場所が川漁や材木搬送に重要な意味を持っていたことが考えられる。また、崖を表す「ホキ」(19 語)、石の多いやせた土地を指す「ソネ」(9 語)、崩壊地を示す「ツエ」(8 語) など「地形」を表す言葉も少ないが使われている。山際の土地を表すと考えられる「サイノウ」(36 語) は窪川でのみ使われている点も注目である。「植物名」(59 語) を持つ地名では「～松」(23 語) が特に多いほか、「キ」(木) (81 語) も多く使われる。木が土地を示す標識として使われていたことがうかがえる。

【社会】

社会的要素では、「ヤシキ」(332 語)「タ」(396 語)「ハタケ」(143 語) が特に多く使われている。建物では、「ヤ」(53 語) よりも「ヤシキ」の呼称が広く使われたことがうかがえる。土佐に一般的な開発名主の家を指す「DOI」(土居) は、大正のみでわずか3語しか使われていない。「神仏」に関する地名も一定数確認できる。「土地」では、「ジ(チ)」(地・94 語)、「バ」

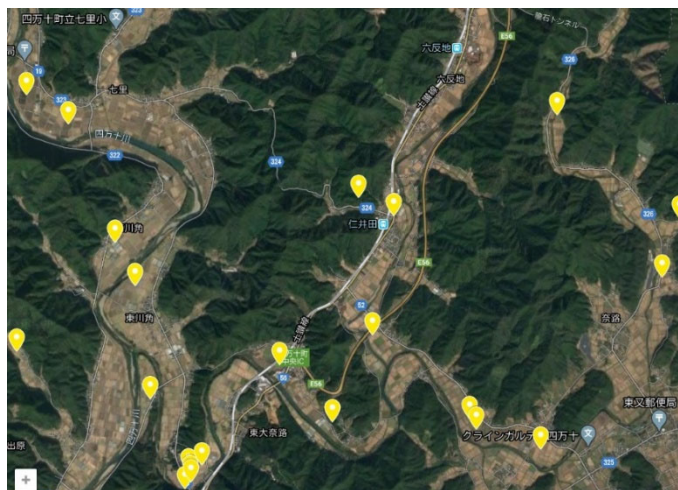


図5 「キレ」地名の分布

(場・60 語) が土地の属性を表す語彙の接尾辞として広く使われたことが分かる。「キレ」(70 語) は、窪川での分布を見てみると平地部の水田地帯の地名がほとんどで(図5)、焼畑の地名(キリ・切り)というより、「田の一区画、枚数」を示す言葉として使われた場合が多いようである。また、窪川では田んぼについては「～タ」に加え、「～デン」も広く使われた。開発地を表す「カイ」(開・31 語)、水田として開かれた湿地を指す「シロ」(23 語) などの開発に関わる語彙、土地所有や土地所有者を示す言葉の後に「ブン」(分・8 語) や「ツクリ」(作・9 語) なども見られる。

「交通」では、「ト」(戸・22 語)、「ツ」(津・10 語) の地名分布も注目される。その多くが川谷の沿岸部にあり、川舟や筏による四万十川の河川交通が盛んだった時代の船付き場に由来した地名であることが実証できる(図6)。「水路」では、

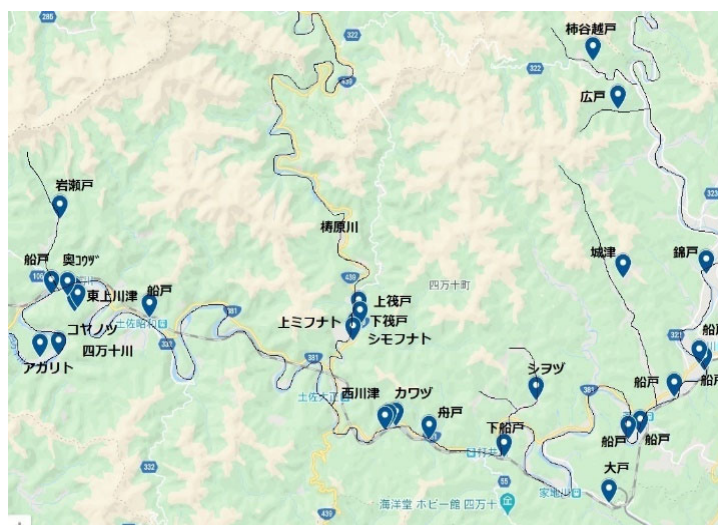


図6 「戸」「津」地名の分布

「イ」(井・24語)「ホリ」(掘・14語)が多く使われている。「堺」(境界)では、「サカイ」(2語)よりも「タチメ」(立目・7語)がよく使われていることがうかがえる。

「人名」に関する語彙は34語。「樟太郎」「太郎左衛門」「幸次郎」「次郎右衛門」「太夫次郎」「コブジ郎」「彦四郎」「平四郎」「文四郎」「小四郎」「貫五郎」「吉五郎」「源五郎」「甚五郎」「伝五郎」



図7 東又地区の人名地名の分布

「馬吾郎」「左右衛門九郎」「藤九郎」といった「～郎」が最も多く、「與助」「ゴスケ」の「～助」、「源太」「忠太」「弥宗多」といった「～太」がある。他に、「弁七」「シノ太夫」「金兵衛」「孫右門」「マタ七」があった。「船頭」「西浅瀬師」「カミスキ」(紙漉き)「堂僧」「ユミウリ」(弓売)といった職業の語彙、平家の落人伝説もある十和(大字戸川)には「ヲチウド」(落人)という地名もあった。上記の多くが江戸時代以前の人名とみられる。職業を除く人名地名の分布を窪川地域の東又地区で見ると、平地部に分布しているのが分かる(図7)。農村部では、屋号に先祖の名前を冠した「名乗り屋号」¹⁴⁾であるケースが多く、東又地区の人名屋号の周辺には「権作屋敷」などの小字も残る。耕地や屋敷地の開発者名に由来する地名である可能性が考えられる。

【位置】

位置関係要素では、「方位」(25語)の語彙は非常に少ない。南北でなく東西の語彙が多いのは、四万十川流域の河岸段丘に集落や田地が横方向に展開する傾向と関係があると推測される。高知県の山間部でよく使われる影地を表す「カゲ」(4語)、日ノ地を表す「ヒウラ」(1語)はほとんど使われない。

「方向」に関する語彙は、「クチ」(口・231語)「モト」(元・本・181語)が多く使われる。このうち「クチ」は「谷」「川」との互換性が高く、「～谷口」は86語、「～川口」は15語を数える。「カミ(ウエ)」(上・91語)、「シモ(シタ)」(下・94語)はほぼ同じ。「サキ」(先・43語)「オク」(奥・34語)「ウチ」(内・32語)「ハナ」(端・鼻・32語)「シリ」(尻・30語)はほぼ同じぐらい使われている。

(3) 小結

地名語彙のカテゴリ分類によって、四万十町でよく使われる地名語彙が明らかになった。この地域の地名の命名においては、地形などの自然的要素に影響を受ける部分が多い。特に「タニ」の語彙が非常に多い。利水の元となる「タニ」は、人間が開発などで関わる社

¹⁴⁾ 言語学者の岡野信子氏は、屋号を「家印屋号」と「言葉屋号」に分類し、「言葉屋号」を誰が命名したのかという視点から「共同命名屋号」「名乗り屋号(自家命名屋号)」「拝領屋号」の3種類に分類している(岡野信子2003『屋号語彙の総合的研究』武蔵野書院)。屋号の研究史については、楠瀬慶太2018「土佐山村の屋号研究試論」『高知大國文』49を参照。

会的要素の「タ」「デン」などの水田地名とも大きく関わるものである。平地部が多く米作が盛んな窪川で「タ」の語彙、田地の少ない十和で「ハタ（ケ）」の語彙が多い。また、林業が盛んな大正で「ヤマ」の語彙が、伐採用の植林に比べ雑木林が多い十和で「ハヤシ」の語彙が多くを占める点も注目すべきである。地名の命名・使用が、その地域の地形や生業と深く関わっていることがうかがわれる。ある地域にしぼって多くの地名を収集し、相対的に分類比較することで地域の特徴が見えてくる。

4、地名語彙からムラを読み解く

地名語彙のカテゴリー分類により、四万十川中上流の四万十町域で使われた地名の全体像が把握されたところで、各集落の小字分布からムラの景観や暮らしを読み解いてみよう。ここでは、四万十町窪川地域の大字・金上野と十和地域の大字・小野の小字分布を分析する。

(1) 金上野

まず、社会的要素の地名語彙の分布を見てみよう。集落と集落をつなぐ峠の存在を示す「コ

エ」「サカ」地名は、大字・^{さいばら}西原との境界にある「ショジ越」、大字・^{みつげ}見付境の「見付越」「上ミ坂」、大字・^{みね}峰ノ上との境にある「カロト越」が大字境に分布している（図8）。「ショジ越」「カロト越」は戦国末期の『長宗我部地検帳』にも見られる地名で、中世から使われた峠道の存在が確認できる。家屋敷を表す「ヤ」「ヤシキ」、寺を示す「アン」（庵）、中世の山城を表す「シロ」（城）、「人名」の接尾辞を持つ地名語彙の分布を見ると、平地部は「岡屋敷」のみで、谷奥や丘陵部に位置するものが多い。またこれらが、集まるのではなく分散して

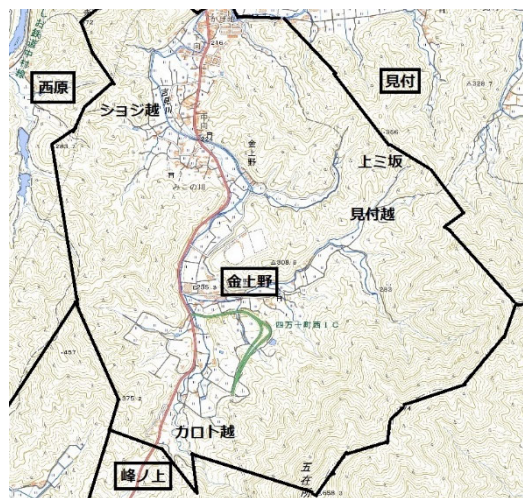


図8 峠地名の分布

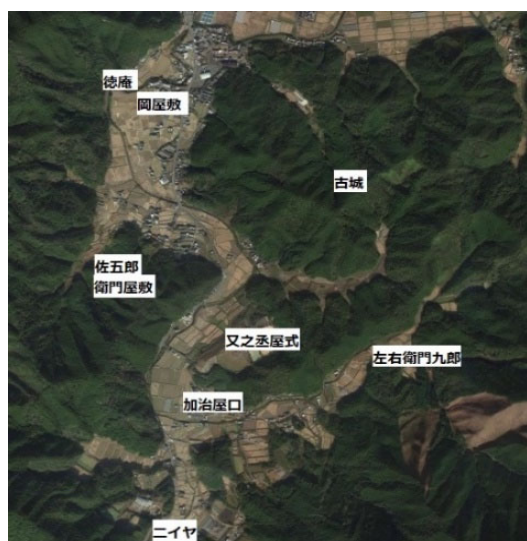


図9 屋敷地に関連した地名の分布

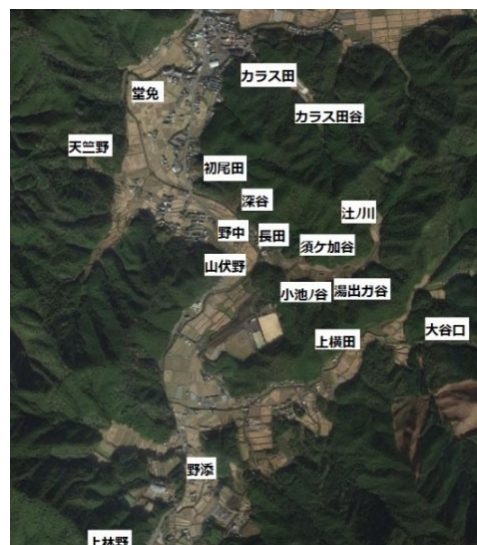


図10 田・谷・野に関する地名の分布

位置している状況が確認できる（図9）。

次に、自然的要素の「ノ」「タニ」と社会的要素の「タ」「デン」の分布を見てみる。金上野には、「天竺野」「山伏野」「上林野」と「ノ」地名が多い。その位置を見てみると、山裾の平坦地にある。「野添」「野中」など「ノ」に関連した地名も見られる（図10）。年貢が免除された田を指す「堂免」は、「徳庵」の免田の地名が残ったものと推測される。「タ」地名は谷口の場合に位置する、その奥には「タニ」地名が散見する。棚田の開発は、灌漑システムからA型＝長水路型で長大な水路から用水を確保する近世末から近代にかけて発達したもの、B型＝小浸食谷から取水する迫田型中世農民の開発と強調されてきた山間部の狭小な湿田、C型＝短水路乾田型で中世の在地領主とも関わる谷の開口部に展開するものの3類型に分類される¹⁵⁾。「タ」地名の分布を見ると、金上野でもA型による平地部の水田が開発される以前は、B型、C型の田が主体であった状況が確認できる。

このように水源の豊富な金上野では、耕地・宅地の「開発」に関わる地名が多い。また、幡多郡と高岡郡をつなぐ往還（遍路道）の途中にあり、集落間の行き来を示す「交通」に関する地名が広く使われたことが推測される。

（2）小野

次に四万十川中流沿いの小野集落の小字分布を見る。まず宅地に関する地名の分布を見てみると、河岸段丘状の低地部に横方向に分散して所在している（図11）。金上野と同様に人名を冠したものが見られる。一方、「田」に関する地名は、山下の河岸段丘の上部に多い（図12）。現在、棚田が展開する河岸段丘中央部には「白皇神田」のみである。「じんてん神田」は中世荘園でよく使用される用語で、白皇神社の祭礼の費用に充てた田と推測される。一方「修正田」は寺が正月3日ないし7日に国家安泰や五穀豊穰を願う仏事「しゅしやうえ修正会」の費用に充てた「じでん寺田」とみられる。「寺屋式」「寺中」と関連の深い地名である。「山麦田」は「栗ノ木谷」の開口部、「修正田」は「池ノ谷」の開口部にあるいずれも谷田である。ここでも谷部の田の開発が早かったことが推測できる。

自然的要素の接尾辞を持つ地名を見てみると、半円状になった河岸段丘中央部



図11 宅地に関する地名の分布

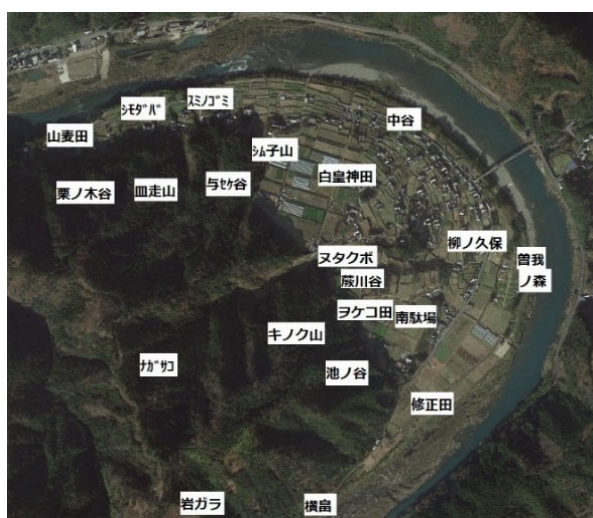


図12 田・地形に関する地名の分布

¹⁵⁾ 海老澤衷 2005 「傾斜面水田調査の方法と課題」『棚田学会誌』6。

の比較的広い平地を「クボ」（柳ノ久保、ヌタクボ）と呼び、半円端部の小さな平地は「ダバ」と呼び、平地の語彙でも呼び分けがあることが確認できる（図 12）。

小野集落では、居住空間に宅地の地名が多く密集し、その周辺に田や地形を表す地名が所在し、景観に対応した地名分布が確認できる。

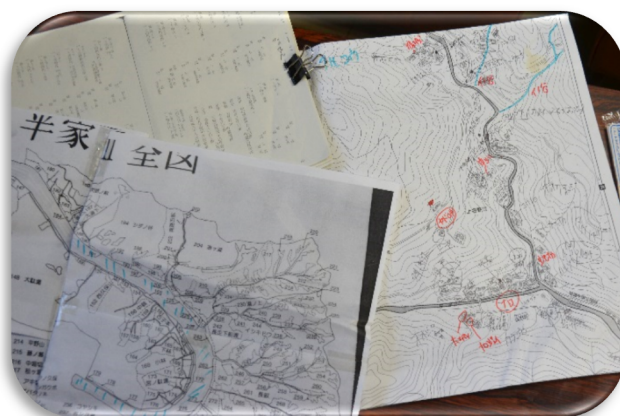
（３）小結

住民が長年使ってきた「地名」は、ムラの生業や開発、景観の痕跡が刻み込まれた歴史資料である。集落調査に地名を活用する際、まず広域に地名語彙を分析し、また大字単位で集落内の地名分布を読み解くことで、特徴的な生業や開発の過程、景観の特徴など集落の概要を知ることができる。こうした理解に加えて、集落に記した文献の調査も重要である。すでに明らかになっている集落の歴史文化の知識を収集することで、現地調査で古老へ聞き取りをする際に、何を聞けばよいかという調査の視点を得ることができるのである。

（楠瀬慶太）



大宮地区での聞き取り調査（2012年6月）



調査で使った小字図や文献、地図